

救急救助編

月別の救急出動状況

平成30年1月1日～12月31日

(单位:件、人)

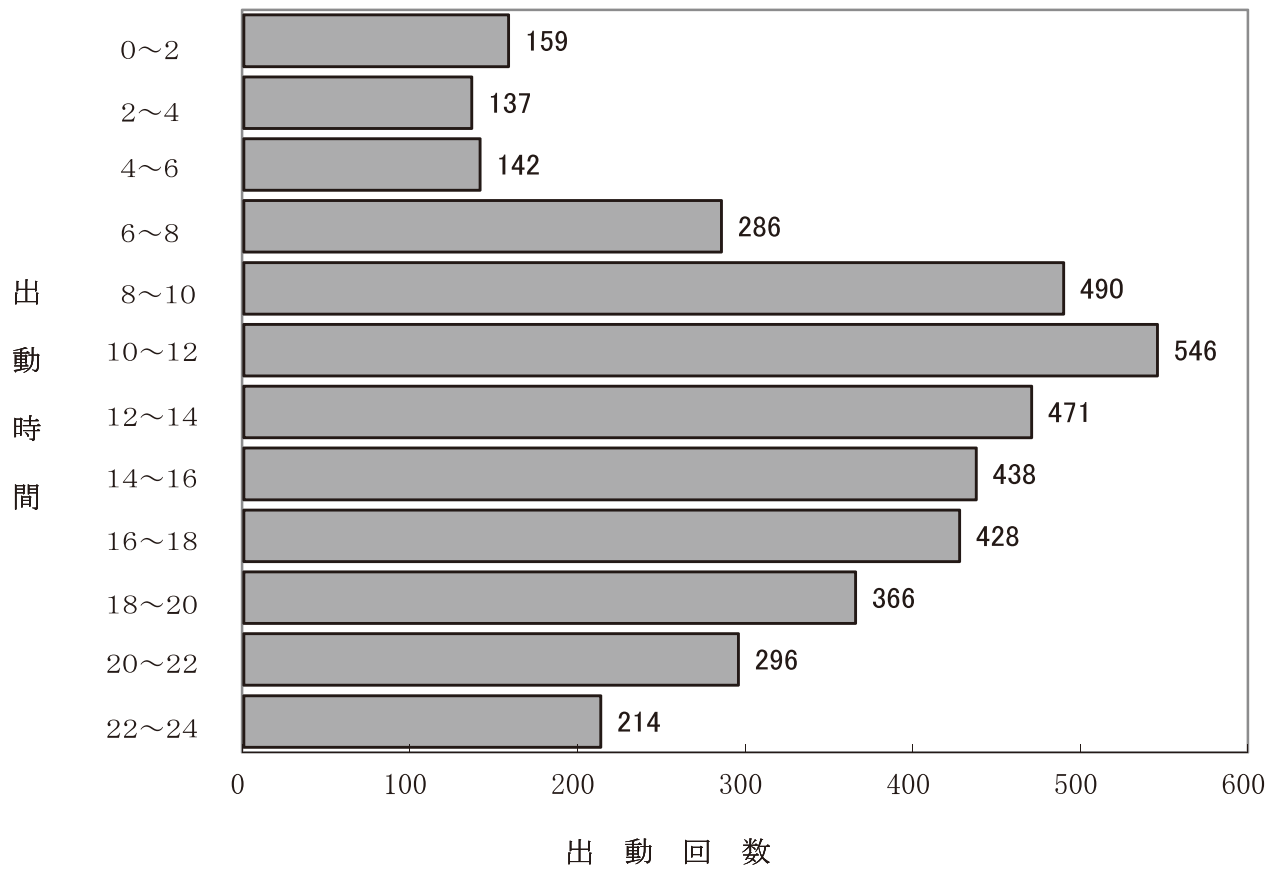
事故種別 区 分		火 災	自 然 災 害	水 難	交 通 事 故	労 働 災 害	運 動 競 技	一 般 負 傷	加 害	自 損 行 為	急 病	そ の 他				計	合 計	不 搬 送
												転 院 搬 送	医 師 搬 送	資 器 材 等 輸 送	そ の 他			
1 月	出動件数	6			18	1	1	59		3	234	57			5	62	384	33
	搬送人員	1			19	1	1	57		1	220	56				56	356	—
2 月	出動件数	2			15			42			230	44			6	50	339	23
	搬送人員				17			40			219	44				44	320	—
3 月	出動件数	3			13	2		59	1	4	208	63			14	77	367	40
	搬送人員				15	2		56	1	4	190	62				62	330	—
4 月	出動件数	4			13	4	4	31		2	200	47			4	51	309	27
	搬送人員	1			13	4	4	31		1	183	47				47	284	—
5 月	出動件数	1		1	20	2	2	43		6	190	56			3	59	324	22
	搬送人員			1	22	2	2	40		4	179	56				56	306	—
6 月	出動件数	4			22	2	3	39		2	186	46			3	49	307	21
	搬送人員				25	2	3	36		2	177	45				45	290	—
7 月	出動件数				25	3	6	48	1		217	51			3	54	354	21
	搬送人員				25	3	6	48	1		201	52				52	336	—
8 月	出動件数				23	1	2	50	1	3	179	54			6	60	319	23
	搬送人員				26	1	2	48	1	2	166	54				54	300	—
9 月	出動件数	1			19	2	4	55	1	6	189	45			4	49	326	31
	搬送人員				15	2	5	52	1	3	173	45				45	296	—
10 月	出動件数	3			18	4	4	46	2	7	173	35			4	39	296	24
	搬送人員				17	4	4	45	2	4	164	35				35	275	—
11 月	出動件数	1			26	1	3	37		2	176	39			2	41	287	29
	搬送人員				20	1	3	35		2	160	38				38	259	—
12 月	出動件数				27	4	1	60	1	1	226	38			3	41	361	25
	搬送人員				26	4	2	56	1	1	215	37				37	342	—
合 計	出動件数	25		1	239	26	30	569	7	36	2,408	575			57	632	3,973	319
	搬送人員	2		1	240	26	32	544	7	24	2,247	571				571	3,694	—

出動	1日平均	10.88 件	(2時間12分に1件)
搬送	1日平均	10.12 人	

時間別救急出動件数

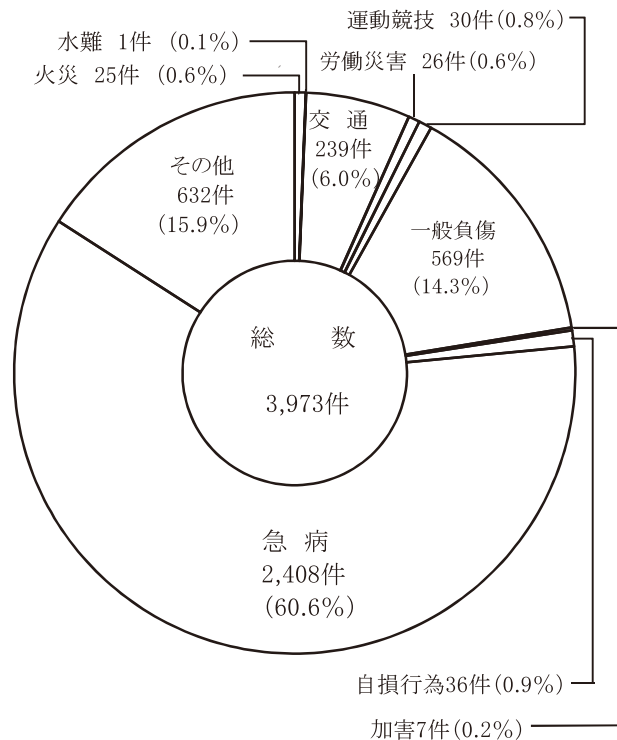
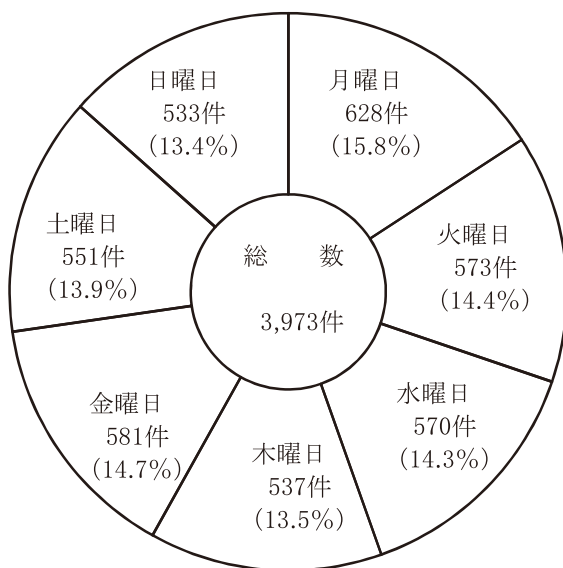
平成30年1月1日～12月31日

(単位：件)



曜日別救急出動件数

事故種別救急出動割合



出動場所別救急出動状況

平成30年1月1日～12月31日

(単位：件、人)

事故種別 出動場所別		火 災	自 然 災 害	水 難	交 通 事 故	労 働 災 害	運 動 競 技	一 般 負 傷	加 害	自 損 行 為	急 病	そ の 他				計	合 計	不 搬 送
												転 院 搬 送	医 師 搬 送	資 器 材 等 輸 送	そ の 他			
岩 見 沢	出動件数	25		1	210	24	29	545	7	33	2,311	545			56	601	3,786	298
	搬送人員	2		1	216	24	31	522	7	21	2,159	542				542	3,525	-
月 形	出動件数				25	2	1	24		3	96	30			1	31	182	19
	搬送人員				21	2	1	22		3	87	29				29	165	-
そ の 他	出動件数				4						1						5	2
	搬送人員				3						1						4	-
合 計	出動件数	25		1	239	26	30	569	7	36	2,408	575			57	632	3,973	319
	搬送人員	2		1	240	26	32	544	7	24	2,247	571				571	3,694	-

過去5年間の救急出動推移

(単位：件、人)

事故種別 年 別		火 災	自 然 災 害	水 難	交 通 事 故	労 働 災 害	運 動 競 技	一 般 負 傷	加 害	自 損 行 為	急 病	そ の 他				計	合 計	不 搬 送
												転 院 搬 送	医 師 搬 送	資 器 材 等 輸 送	そ の 他			
26 年	出動件数	25		1	213	44	20	523	13	29	2,351	494		2	63	559	3,778	325
	搬送人員	3			223	41	19	497	11	20	2,183	494				494	3,491	-
27 年	出動件数	22		2	228	22	18	488	9	43	2,275	541			39	580	3,687	314
	搬送人員	1		1	256	22	18	451	9	26	2,095	540			1	541	3,420	-
28 年	出動件数	26		2	243	34	28	538	11	39	2,313	513	1	1	58	573	3,807	310
	搬送人員	4			245	34	27	514	7	32	2,162	512				512	3,537	-
29 年	出動件数	27			196	20	18	519	8	27	2,390	564			43	607	3,812	315
	搬送人員	6			190	20	18	472	7	21	2,226	561			3	564	3,524	-
30 年	出動件数	25		1	239	26	30	569	7	36	2,408	575			57	632	3,973	319
	搬送人員	2		1	240	26	32	544	7	24	2,247	571				571	3,694	-

傷病程度別の搬送人員状況

平成30年1月1日～12月31日

(単位：人)

事故種別 傷病程度	火 災	自 然 災 害	水 難	交 通 事 故	労 働 災 害	運 動 競 技	一 般 負 傷	加 害	自 損 行 為	急 病	そ の 他	合 計
死 亡			1	1			8	1	6	85	2	104
重 症				23	4	1	121	1	9	434	258	851
中 等 症				21	6	5	73		2	595	245	947
軽 症	2			195	16	26	342	5	7	1,133	66	1,792
そ の 他												
合 計	2		1	240	26	32	544	7	24	2,247	571	3,694

傷病程度 初診時における医師の診断(救急業務実施基準第20条第2項の医師の所見)に基づき次により分類する。

1. 死 亡 初診時において死亡が確認されたもの
2. 重 症 傷病程度が3週間以上の入院加療を必要とするもの
3. 中等症 傷病程度が入院を要するもので重症に至らないもの
4. 軽 症 傷病程度が入院加療を必要としないもの
5. その他 医師の診断がないもの、及び搬送先がその他の場所へ搬送したもの

年齢区分別の搬送人員状況

平成30年1月1日～12月31日

(単位：人)

事故種別 年齢区分	火 災	自 然 災 害	水 難	交 通 事 故	労 働 災 害	運 動 競 技	一 般 負 傷	加 害	自 損 行 為	急 病	そ の 他	合 計
新 生 児										3	16	19
乳 幼 児				9			26			55	9	99
少 年				12		16	13		1	32	4	78
成 人	1			148	21	16	121	5	14	547	132	1,005
高 齢 者	1		1	71	5		384	2	9	1,610	410	2,493
合 計	2		1	240	26	32	544	7	24	2,247	571	3,694

年齢区分

1. 新生児 生後28日未満の者
2. 乳幼児 生後28日以上満7歳未満の者
3. 少 年 満7歳以上満18歳未満の者
4. 成 人 満18歳以上満65歳未満の者
5. 高齢者 満65歳以上の者

救急隊員が行った応急処置件数

平成30年1月1日～12月31日

(単位：件、人)

事故種別	応急処置 対象人員	止血	固定	人工呼吸	胸骨圧迫		心肺蘇生		酸素吸入	保温	被覆
						うち自動		うち自動			
急病	2,239	14	41	4			87		536	40	9
交通	235	36	115				1		25	5	38
一般負傷	534	111	162				9		44	10	120
その他	654	20	43	1			11		187	11	17
合計	3,662	181	361	5			108		792	66	184

事故種別	応急処置	気道確保				在宅療法継続			ショックパ ンツによる 血圧保持	除細動
		※1	※2	※3	※4気管挿管	※A	※B	※C		
急病	126		2	75	1	7		7		7
交通	2			1						
一般負傷	11		3	5	3					
その他	11			5						2
合計	150		5	86	4	7		7		9

事故種別	その他の 応急処置	静脈路確保		薬剤投与 アドレナリン	ブドウ糖 投与	血圧 測定	聴診器に よる聴取	血中酸素 飽和度の 測定	心電図	血糖測定	合 計
		CPA前	CPA後								
急病	3	18	32	27	15	2,105	581	2,152	1,001	112	6,917
交通			1	1		226	56	233	47		786
一般負傷	1	1	5	4		513	62	521	74	4	1,652
その他	1	2	2	2		627	99	641	233	1	1,911
合計	5	21	40	34	15	3,471	798	3,547	1,355	117	11,266

- 止血 直接圧迫、止血帯、包帯等による止血処置
- 固定 副子等による固定又は安静保持
- 人工呼吸 口対口又は器具等による人工呼吸
- 胸骨圧迫 胸骨圧迫心マッサージ
- 心肺蘇生 心肺蘇生法
- 酸素吸入 酸素吸入器による酸素吸入
- 保温 傷病者の状況から保温を保持する必要がある場合に行う保温処置
- 気道確保
 ※1 経鼻エアウェイを使用しての気道確保
 ※2 喉頭鏡・マギール鉗子等による異物除去
 ※3 救急救命士法に基づき重度傷病者に対して行う救急救命処置のうち、ラリングアルマスク等を使用しての気道確保
 ※4 救急救命士法に基づき気道確保のための処置で救急救命士が行った気管挿管処置
- 被 覆 創傷をガーゼ等で被覆する創面保護
- 在宅療法継続 在宅療法継続中の傷病者に対しその療法維持のために行った必要な処置及び在宅療法に異常があった場合に行った応急処置
 ※A 在宅中心静脈栄養管理・在宅化学療法等により点滴処置が施されているもの
 ※B 気管切開孔又は気管瘻、人工肛門等の外瘻処置が施されているもの
 ※C ※A、※B以外の処置が施されているもの
- ショックパ
ンツによる血圧保持 ショックパ
ンツを使用した血圧保持の処置
- 除 細 動 重度傷病者に対して行う救急救命処置のうち、自動体外式除細動器(AED含む)による除細動
- 静脈路確保 CPA前～救急救命士法に基づき心肺機能停止前に行う静脈路確保のための輸液
CPA後～救急救命士法に基づき重度傷病者に対して行う救急救命処置のうち、薬剤を用いた静脈路確保のための輸液
- その他の応急処置 1から13以外の応急処置
- 血圧測定 血圧計を使用しての血圧測定
- 聴診器による心音・呼吸音等の聴取 聴診器を使用しての心音・呼吸音等の聴取
- 血中酸素飽和度の測定 血中酸素飽和度測定器を使用しての血中酸素飽和度の測定
- 心 電 図 心電計を使用しての心電図の測定
- 薬剤投与 救急救命士法に基づき重度傷病者に対して行う救急救命処置のうち、アドレナリンの投与
- ブドウ糖投与 低血糖傷病者へのブドウ糖溶液の投与
- 血糖測定 救急救命士法に基づき救急救命士が行なった血糖測定

急病にかかる疾病分類別搬送人員の状況

平成30年1月1日～12月31日

分類項目別	循環系		消化器系	呼吸器系	精神系	感覚器系	泌尿器系	新生物	その他	症徴診不	合 計
	脳疾患	心疾患等									
搬 送 人 員 (人)	177	303	188	297	108	137	78	72	423	464	2,247
構 成 比 (%)	7.9	13.5	8.4	13.2	4.8	6.0	3.5	3.2	18.8	20.7	100.0

1. 急病に係る疾病分類とは、事故種別の急病については初診時における医師の診断に基づく傷病名をWHO(世界保健機関)で定める国際疾病分類(ICD)により分類したものである。
2. 「脳疾患」とは、脳血管疾患をいう。
3. 「新生物」とは、胃の悪性新生物、白血病等その他の悪性新生物及びその他の新生物をいう。
4. 「症徴診不」(症状・徴候・診断名不明確の状態)とは、腹痛、頭痛、失神、めまい等の疾病をいう。
5. 「その他」とは、上記の循環系から新生物までに分類された以外の疾病分類の全てである。

救助事故種別出動件数

平成30年1月1日～12月31日

(単位：件)

事故種別 件数区分	火災		交通事故	水難事故	風水害等 自然災害	機 械 に よる 事故	建物等に よる 事故	ガス及び 酸欠事故	破裂事故	その他の 事 故	合 計
	建物	建物以外									
岩 見 沢 市	2		26	1		4	23	2		17	75
月 形 町			5				1			2	8
そ の 他 の 市 町 村			3								3
合 計	2		34	1		4	24	2		19	86

救助活動件数・救出人員数調

平成30年1月1日～12月31日

(単位：件、人)

事故種別 件数区分	火災		交通事故	水難事故	風水害等 自然災害	機 械 に よる 事故	建物等に よる 事故	ガス及び 酸欠事故	破裂事故	その他の 事 故	合 計
	建物	建物以外									
活 動 件 数	2		21			2	20	1		5	51
救 出 人 員	7		23			2	20	1		5	58

1. 火災とは、火災現場において、直接火災に起因して生じた事故をいう。
2. 交通事故とは、すべての交通機関相互の衝突及び接触又は単一事故若しくは歩行者等が交通機関に接触したこと等による事故をいう。
3. 水難事故とは、水泳中の溺者又は水中転落等による事故をいう。
4. 風水害等自然災害事故とは、暴風、豪雨、豪雪、洪水、高潮、地震、津波、噴火、雪崩、地すべり、その他の異常な自然現象に起因する災害による事故をいう。
5. 機械による事故とは、エレベーター、プレス機械、ベルトコンベアその他の建設機械、工作機械等による事故をいう。
6. 建物等による事故とは、建物、門、柵、へい等建物に付帯する施設又はこれらに類する工作物の倒壊による事故、建物等内に閉じ込められる事故、建物等に挟まれる事故等をいう。
7. ガス及び酸欠事故とは、一酸化炭素中毒その他のガス中毒事故、酸素欠乏による事故等をいう。
8. 破裂事故とは、火災現場において直接火災に起因して生じた事故以外のボイラー、ボンベ等の物理的破裂による事故をいう。
9. その他の事故とは、上記に掲げる事故以外の事故で、消防機関による救助を必要としたものをいう。

救急講習会の実施状況

各年1月1日～12月31日

年 別		平成30年	平成29年	平成28年
区 分	回 数	60 回	40 回	45 回
	受講者数	1,808 人	1,190 人	1,079 人
一 般 講 習	回 数	69 回	44 回	52 回
	受講者数	1,239 人	725 人	972 人
普 通 救 命 講 習	回 数	0 回	0 回	0 回
	受講者数	0 人	0 人	0 人
普 及 員 講 習	回 数	129 回	84 回	97 回
	受講者数	3,047 人	1,915 人	2,051 人
合 計	回 数			
	受講者数			

1. 一 般 講 習 応急手当等の基礎的な知識を習得させる講習。
2. 普 通 救 命 講 習 AEDを含めある程度専門的な技術を習得させる講習で、受講者には「修了証」を交付。
3. 普 及 員 講 習 事業所、団体、地域等で応急手当の指導・普及に当たるものを養成する講習。

救急業務の高度化の流れ

- 平成15年4月 … 「救急救命士法」の改正→「指示なし除細動」の実施が可能となる。
- 平成16年5月 … 救急救命士による”包括的指示下”での「除細動実施」の運用開始。
- 平成16年7月 … 医師の指示を受けて救急救命士による「気管挿管」の実施が可能となる。
市民の「AED(自動体外式除細動器)」の使用が可能となる。
- 平成17年5月 … 市民に対して「AED講習」の開始。
- 平成18年4月 … 医師の指示を受けて救急救命士による「薬剤投与」の実施が可能となる。
- 平成21年3月 … 「エピペン(自己注射が可能なエピネフリン製剤 別名アドレナリン)」
の投与が可能となる。
- 平成23年8月 … 「ビデオ硬性挿管用喉頭鏡による気管挿管」の実施が可能となる。
- 平成26年4月 … 「心肺機能停止前の重度傷病者に対する静脈路確保及び輸液」の実施が可能
となる。
「血糖測定」並びに「低血糖発作症例に対するブドウ糖溶液の投与」が可能
となる。